船橋納税貯蓄組合連合会　会長賞

安全な暮らしを守るための税金

船橋市立習志野台中学校
第三学年　芳川　凜華

私たちの安全な暮らしを守るために、日々命がけで働いている人達がいます。その中の一人が私の父です。私の父は自衛官です。この作文を書くにあたって税金について調べたところ、父の給料が税金から支払われていると知り、私は税金というものを身近に感じるようになりました。

税金と聞くと、買い物をしたときにかかる消費税など、お金を取られるものというマイナスのイメージを持つ人が多いと思います。しかし、自衛隊の活動について調べていくうちに、その考えは大きく変わりました。自衛隊は、国の防衛だけではなく、地震や台風などの災害救助、国際平和協力活動など、私たちの命に直結する重要な任務を担っています。これらの活動に必要な防衛費や、隊員たちの給料は、すべて国民が納めた税金で賄われています。そして父が現場で使う装備も、日々の厳しい訓練も、私たち家族の生活を支える給料も、日本中の人々が社会を支えるために出し合った大切な税金から出ているのです。この事実に気づいた時、私は責任の重さを感じました。もし税金がなければ、自衛隊のような大きな組織を維持することはできません。災害が起きても救助は来ず、国の安全も脅かされてしまいます。その他、警察や消防、医療や教育など、私たちの平穏な日々は、税金という仕組みがあるからこそ成り立っています。誰一人として、税金の恩恵を受けずに生きている人はいないのです。

私は、税金から給料をもらって働く父を心から尊敬しています。そして、その父を支えてくれる多くの納税者の皆さんに、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

私たちが何気なく過ごしている日々は、決して当たり前の毎日ではありません。今に至るまで、多くの人々が日本を維持するために力を尽くしてきてくれたからこそ、今の私たちの暮らしがあるのです。私たちがその仕組みを正しく理解し、次の時代へと繋いでいくという責任もあります。

父が社会に貢献しているように、私も社会の一員として、より良い未来のために正しく税金と向き合っていきたいです。